

## 協力関係の更なる強化を確認 ～ フィリピンのアキノ大統領と当協会首脳が面談 ～

フィリピンのベニグノ・アキノ大統領が、9月25日から28日まで来日した機会をとらえ、9月28日午前、芦田昭充会長(商船三井会長)をはじめとする当協会首脳は、同大統領を表敬訪問し、面談した。

面談には、フィリピン側からアキノ大統領の他、ロハス運輸通信大臣、プリシマ財務大臣、ロペス駐日大使他が出席、当協会からは芦田会長の他、朝倉副会長(川崎汽船社長)、飯塚副会長(国際船員労務協会会長)、五十嵐副会長(日本郵船顧問)、武藤常任理事(商船三井社長)、日本郵船の田澤専務が出席した。また、



面談には、わが国海運業界と関係の深い、Philippines-Japan Manning Consultative Council (アキノ大統領(右)と面談する芦田会長代理店協会) のマネッセ会長、ドリス・マグサイサイホー氏も同席した。

面談の冒頭、芦田会長より、東日本大震災の被災地に対するフィリピンからの支援や、日本就航船舶に乗り組むフィリピン人船員の福島原発放射能漏れ発覚以降の冷静な対応等に深謝した。

その後、海賊問題や日本海運業界におけるフィリピン人船員の重要性等について意見交換するとともに、日本・フィリピン両国の益々の経済発展に向け、両国海運関係業界の協力関係を一層強化していくことを確認した。